たちばな新聞
橘墓苑　睡蓮堂
水谷山
寶清寺
橘墓苑
水谷庵
睡蓮堂
たちばな会館

お盆と
お施餓鬼法要

お盆の時期が参りました。

東京は七月、地方は八月で、どちらも、十三日～十六日です。

当山では、七月十七日十一時からお施餓鬼法要を厳修しています。

※法要後、たちばな会館にお斉（お弁当）の用意があります。

お盆の時期は、ご家族で墓参し、今年新盆に当たる仏様がいらっしゃる場合は、施餓鬼法要にご参加下さい。

日蓮聖人遺訓　第四十二回

「仏になる道は師に仕ふるには過ぎず」（身延山御書）

このご遺文で日蓮聖人は、晩年、心やすく住まわれた身延山の風向を語られながら、ご自身のそれまでの人生を感慨深く語られています。

まず、お釈迦さまがお悟りを開かれるまでの修行の姿や、法華経の物語にご自身を重ねられ、信仰には導きの師が肝心であることを示されました。

今ある我々の存在は自分独りで育ったのではなく、何かに導かれたものだと思います。「導きの師」は「人」だけとは限りません。小説や映画等の追体験であったり、反面教師の場合もあります。自身を育ててくれた「師の存在」を自覚する事が大切なのではないでしょうか。

昨年、宝清寺が所属している八王子立正知恩会の本立寺の元住職・及川真介師が、日本印度学仏教会より、師の長年に及ぶパーリー語翻訳・研究のご功績に対し、鈴木学術財団特別賞を授与された。今年、四月に八王子エルシーで「パーリー語一本槍」と題する講演と祝賀会が開かれた。

講演は大変興味深いもので、次に記載するようなことを考えながら拝聴した。

仏教は、紀元前四六三年頃、インドの釈迦を開祖として始まった。釈迦は、サンスクリット語・パーリー語を音写した呼び名で、父は浄飯王、母は摩耶夫人の長子として四月八日に誕生、釈迦は生後七日で生母を失い、叔母の摩訶波闍波提によって養育された。十六歳の時、耶輸陀羅を妃に迎え、羅睺羅をもうけた。この頃、深く人生の問題に悩み二十九歳で出家、難行苦行・沈思瞑想し、ついに悟りを開いた。日本の仏教徒はこの日を十二月八日とし、「成道の日」と呼び毎年、仏教会主催で「成道会」が行われている。覚者となった釈迦は鹿野苑に行き、かつて一緒に修行した五人を教化し弟子として仏教教団を設立した。

釈迦が開いた仏教は、北インドからガンダーラを経て、中央アジア、中国に伝わり、更に、朝鮮、日本、ベトナム、台湾に伝播した北方仏教（大乗仏教）と、スリランカ、ビルマ（ミャンマー）、タイ、カンボジア、ラオスなどの国々に現存している南方仏教（小乗仏教）とがある。

南方仏教ではお釈迦様を、父浄飯王の後継の意志に背き、従兄弟の提婆達多と釈迦の息子羅睺羅を出家させた非情な釈迦として伝え、北方仏教では慈悲の人として世の人々を救済する釈迦として伝えている。

また、現存するお経も八四、三八四種と膨大な数が残されている。

釈迦の出家については、当時、インドの釈迦族は左右を敵大国に挟まれた小国であり、釈迦族は存亡の危機にあった。そこで、釈迦は危機的な小国の王になるより、出家して釈迦族を護ろうとしたと考えられる。身内や釈迦族にしてみれば、親と種族を見限った非情な釈迦になるが、世の人々を救済し、釈迦族の名を後世に残した釈迦でもある。現に、お釈迦様は死期が近づいた時、故郷をめざすが途中のクシナガルで八十才で入滅している。その時、すでに釈迦族の国は消滅していた。

釈迦の時代も国内で戦争が絶えず社会が混乱していた状態であり、お釈迦様は釈迦族存続のために、苦悩の末に出家の道を選んだ。そして、親子の身近な情を退け、世の人々を救済する教えを広めた。釈迦の存在により、釈迦族の名が今日でも語られることになった。

我々も問題が山積する社会で、自身の家や家族のために、必死に生きている。混乱した社会で生きているという条件は同じなのに、成功者と落伍者があったり、才能があるのに生かせない人もいる。

その違いはどこから生じるのか。それは、問題に直面した時の本人の意識に影響しているのではないだろうか。お経の膨大な数のように、人々はマスコミやうわさ話に振り回され、事実とは違うことを根拠にして、不安から動揺して、自分自身の判断が鈍り、正常な判断ができないまま生活している傾向があるのではないだろうか。

夫が妻を殺したり、子が親を殺したり、同級生が友達を人に頼んで殺させたりは論外としても、世の中で起こる事件や身の回りの出来事には、「おかしい」と思う人も多く「おかしい」と感じる事柄が多い。

私は、中国の思想家の中で、荘子が好きな思想家の一人だ。荘子は老子の思想を継承し、『人間の世界は混乱しているけれど、自然は秩序が保たれた平和な世界である。

「無為自然」―作為を弄せず、あるがままの自然に従って生きよ。

「清浄恬淡」―限りない欲望や執着心を捨て去って生きよ。

「柔弱謙下」―水のように柔軟で謙虚な気持ちを保ち、強さや賢さをひけらかすことなく、他者と争うことを捨て去って生きよ。』と説いている。

今の世の中は、欲や妬みなど自身さえ良ければという他意ある人々の言動や行為が目立ち、真実が現れ難い傾向が多く見られるだけに、私は最近、「おかしい」と思った物事の判断基準を、社会生活や人間の生き方として、「自然」か「不自然」かを基準に考えるように心掛けている。

住職ひと口法話　第四十二回

仕事の関係で、お年寄りと話す機会が多い。「年を取ったせいで、からきし意気地がなくなってね。」とか、「病気をしたせいか、元気が出なくてね。」など、今まで出来ていたことが、出来なくなったことの言い分けのように、年のせいや病気のせいにして自分を慰めている人が多くいる。一方、病気をしても、執筆活動を続け、まだ書きたいことがあると、「クローズアップ現代」で話す、九十三歳の瀬戸内寂聴さんや、「徹子の部屋」で黒柳徹子の質問にしっかりと受け答えする、百三歳の医師日野原重明さんがいる。特別な二人ではなくとも、元気なお年寄りを取り上げた番組が目立つ。

人は遅かれ早かれ、死を迎える事は避けられないのだから、**「自分の人生に、自分で限界を設けない」事が大切だと思う。**

お酒の好きなお檀家さんで、そろそろ七十歳を迎えるNさんが尋ねてきて、「最近、お酒がめっきり弱くなった。」と、こぼされていた。私もお酒が好きですが、健康のことを考えて、毎日習慣的に飲むことをやめ会合や外食の時、また、美味しいお酒が手に入った時だけ飲むように、飲み方を変えたら飲んだときのお酒が格別に美味しかったことを話したところ、「そうですか。良いですね。」と共感が得られた。**人は年を取れば若いときに出来たことが体力・気力ともに出来ないのは当然です。生活の意識を変えることで、年齢に応じた「新しい人生」が生まれるのではないでしょうか。**

発行　寶清寺　東京都あきる野市小川101番地　電話 042-558-2663　FAX042-558-2693　たちばな会館電話 042-550-5868

日蓮聖人伝

「比叡山遊学」（二）

日蓮聖人御遊学の目的は一貫して『報恩抄』で述べられるごとく「一切経の心をしるべし」ということでした。

聖人の時代には八宗十宗と言われる、宗派林立の時代でしたから、お釈迦様の教えとなる中心、つまり心髄となるものはどこにあるのかを探求する旅こそが、日蓮聖人御遊学の到達点だったのです。そのために仏教の総合大学と言われる天台宗比叡山延暦寺に入山いたしました。しかし、延暦寺だけでは、不足する資料もあったのでしょう。比叡山から琵琶湖西岸に沿って南に七キロ行くと、三井寺があります。もとは一つの天台宗でしたが、密教に関する考え方の相違から分派し、延暦寺を山門派、三井寺を寺門派として袂を分かつ結果となりました。

聖人二十五歳の時、分派した三井寺にも訪れています。おそらく延暦寺にはない密教の典籍を研究するために行かれたのではないでしょうか。

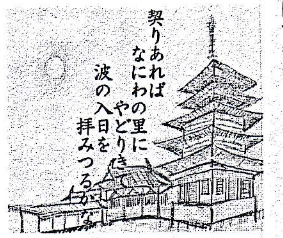
また、洛中にも聖人の足跡が数多く残されています。現在の京都市東山区に位置する、臨済宗東福寺派大本山である東福寺には、「日蓮柱」と呼ばれる石碑があり、日蓮聖人が一材を寄進したことが記されております。

聖人の足跡は京都にとどまらず、奈良の名刹、東大寺や薬師寺にも訪れ経蔵に入られたと記録にあります。奈良では油阪の蓮長寺に長く滞在されていたようです。

京都、奈良の御遊学を終えられ、空海が開いた真言宗高野山金剛峯寺にも訪れた記録が石碑や題目碑となって現存します。

次に大阪にある、聖徳太子建立の四天王寺、聖徳太子の御廟がある叡福寺にて七日間参籠の後に夜通しで法華経を読誦され、畿内御遊学で得られた結論のご報告をなされたようです。

十二年間の勉学を終えられた聖人は、天照大神と八百万の神々が祀られる伊勢神宮に参詣され、法華経弘教の誓願を立て故郷、安房の清澄の帰路につきました。



契りあれば
なにわの里に
やどりきて
波の入日を
拝みつるかな

お盆の御案内

お盆は、期間や飾り付けなど地域や家庭、宗派によっても違いがあり、「これが正しいやり方だ」と言うことは出来ませんが、故人の家族・親類・旧知の方々が集まって故人の霊を心よりお迎えし、出来れば生前にお好きだった食べ物や飲物を用意し、お迎えして頂きたいと思います。また、僧侶に読経をお願いすれば、先祖代々のみならず、残された家族にも幸せが訪れると言われます。塔婆供養をすることは、最高のお供え物ですので、あわせて御案内致します。

お施餓鬼法要

新聞の表面でもご案内いたしましたが、宝清寺にて七月十七日十一時より「お施餓鬼法要」がおこなわれます。

ご家族揃ってお越しいただき焼香をなさってください。特に本年が新盆にあたる方は、本堂内陣に白木位牌をお供えし、回向しますので、ご参列たまわりますよう御案内申し上げます。

また、法要後は住職の法話が御座います。法話後は昼食をご用意しておりますので、墓所参拝後にごゆっくりお召し上がりください。

管理料のご案内

橘墓苑の管理料納入はもうお済みでしょうか？

宝清寺では、「墓苑管理料」を前納でお願いしております。また、納付期限は三月末日となっております。四月一日より新年度となっておりますので、未納の方はお早めにお納めください。

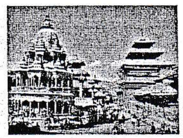
また、ゆうちょ銀行の口座が御座いましたら、便利な自動引落に切り替えることも出来ますので、あわせて御案内申し上げます。ご不明な点がございましたら、お気兼ねなくご相談ください。

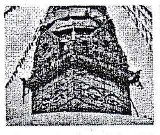
編集後記

四月二十五日午前十一時ネパールの首都カトマンズから北西七十七キロの地点を震源とする震度八前後とみられる大地震が発生し、八千人以上の死者と二万人以上の被災者が出ました。この紙面をお借りして哀悼の意を表します。

私も何年か前、まだ王制であった頃のネパールを訪れたことがあります。三方をインドに囲まれ、北側が中国のチベット自治区です。カトマンズは盆地ですが、ヒマラヤの玄関口と言われるように、高原のイメージがあり、北側は天を見上げるように高い山脈が連なっていたことを今でも鮮明に記憶しています。

ダルバール広場では、チベット仏教の寺院が建ち並び、エキゾチックな中にも、どこか郷愁の念が湧いてくる町並みでした。また、スワヤンブナートはネパール仏教寺院の中心的存在で、壁に目の絵が書いてあることから目玉寺とか、猿が多いことからモンキーテンプルの愛称で呼ばれる寺院でした。





仏教の聖地として、お釈迦様が誕生したルンビニや、釈迦族の城があったと言われるティラウラコットもインドではなく、チベット側にあり、多くの建造物が修復不可能な状態であると報道されていることから、多くの方の被災とともに、仏教ゆかりの聖地が崩壊したことは二重のショックでした。一刻も早く往事の姿に復興し、被災された方が安心できることを祈念します。

宝清寺の草花

正岡子規は、くちなし（梔子）の花をつぎのように読み上げました。

薄月夜
　花くちなしの
　　匂いけり

梔子の花の香りは、春の沈丁花、秋の金木犀にひけをとらないほどの芳香を発し、夏の月明かりのもと、その香だけで、白い花の情景が浮かび上がってきます。

梔子は、あかね科くちなし属の木で、開花は六月中旬から七月下旬ごろです。

白い花と芳香だけでなく、その実も重宝な存在で、冬になると梔子の実を求めて訪れる方もいらっしゃるくらいです。

梔子の実は、「栗きんとん」の色づけに使用したり、漢方薬にもなり、草木染めとしても、鮮やかで、暖かみのある黄色の染料として使用されています。また年配の方には、「歌のタイトル」としても有名ですので、花の形は知らなくても、名前はご存じの方も多いのではないでしょうか。

宝清寺の年中行事

三月彼岸中日	塔婆供養
四月八日	花祭り
七月十七日	盂蘭盆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	塔婆供養
十月十二日	お会式法要

日蓮宗の聖日

二月十五日	釈尊涅槃会
二月十六日	宗祖降誕会
四月八日	釈尊降誕会
四月二十八日	立教開宗会
五月十二日	伊豆法難会
五月十七日	身延御入山
七月八日	本尊始顕会
八月二十七日	松葉谷法難会
九月十二日	龍ノ口法難会
九月十八日	池上御入山
十月十三日	宗祖御会式
十一月十一日	小松原法難会

御祈願・御供養

交通安全
商売繁盛
虫封
方位除
開運祈願
安産祈願

宝清寺では、花祭り（灌仏会）、お盆（盂蘭盆会）の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

発行・日蓮宗水谷山宝清寺
住所・東京都あきる野市小川一〇一
電話・〇四二―五五八―二六六三
FAX・〇四二―五五八―二六九三
インターネットホームページ
http://www.ab.auone-net.jp/~houseiji/
メールアドレス
houseiji@ac.auone-net.jp